所報 あきた

所報あきた 128号
令和３年１月31日発行
発行所　曹洞宗秋田県宗務所
発行責任者　齋藤昭道
〒010－0812 秋田市泉三嶽根15－18
ＴＥＬ(018)868－6871
ＦＡＸ(018)868－6872
http://soto-akita.com
info@soto-akita.com
題字　能代市倫勝寺　山田晃一
写真　能代市倫勝寺　山田俊哉

新年明けましておめでとうございます。
山内御一同様、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。
この一年、ご指導・ご鞭撻よろしくお願い致します。
また、この度の豪雪による被害とご難儀に対し心よりお見舞いを申し上げます。

宗務所長　玉林寺住職　齋藤昭道
副所長　月宗寺住職　袴田俊英
教化主事　西来院住職　田中裕憲
庶務主事　清松寺住職　佐藤徳祐
梅花主事　長泉寺住職　中村卓道
人権擁護推進主事　本宮寺住職　佐藤善廣
書記　蔵立寺副住職　伊藤涼平
書記　松庵寺住職　安孫子賢太

今冬の年末年始、秋田県内はコロナ禍に加え記録的な豪雪に見舞われました。特に県南内陸部の横手市や湯沢市、羽後町は被害も多発し、15年ぶりに自衛隊に派遣要請を発する事態になっております。各地の豪雪の様子をお伝えします。

雪に埋もれた中庭
横手市　黄龍寺様

本堂入り口は通行できず
羽後町　久昌寺様

山門は通行止め
横手市　重福寺様

境内の杉も折れる
横手市　重福寺様

写真をお届けいただきました黄龍寺様、久昌寺様、重福寺様、誠に有り難うございました。

叡智

秋田県　宗務所　所長　齋藤昭道

謹んで令和三年の新春をお祝い申し上げ、あわせて皆さまのご多幸をお祈り申しあげます。県内御寺院様におかれましては恙無く新年を迎えられたことと拝察申し上げます。

しかし残念な事に、世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症は、現在も収束の兆しも見えず、第三波の真っ只中にいるようであります。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに未だ闘病中の皆さまの一日も早いご回復をお祈りいたします。

このコロナ禍の中で、宗務所行事も悉く中止せざるを得なくなってしまいました。本庁主催や管区主催の諸行事も中止となっております。来年度の全国梅花大会も早々に中止となってしまいました。そして、皆様の中には研修会や行事の中止等により不利益を被る方も出ておられるのではないかと心配しております。

そこで、来年度の宗務所主催の諸行事はしっかりとした感染予防対策をとり開催してまいりたいと考えております。

また、このコロナ禍で否応なしに葬儀の形態が大きく変わったと感じているのは私だけではないと思います。家族葬という名のもとに数名の参列者による葬儀となり秋田では大切にされてきた隣家や親戚の参列もなく、家族の中でも関東等の離れた場所に住む方は参列しない形態となっております。故人との繋がりを大切にする葬儀とは云えなくなってしまいました。

民俗学者の柳田国男氏の「先祖の話」の中に熟年男性のエピソードが書かれています。

太平洋戦争末期に書かれたこの本の冒頭に印象的なお話があります。男性は地方から上京して成功し、子どもに家を持たせ墓所も作ったという男性は「自分は御先祖になるつもりだ」と朗らかに語り、これを聞いた柳田氏は「古風なしかも穏健な心掛け」と感心するのです。

膨大な数の戦死者が出て空襲で多くの民間人が亡くなった時期に柳田氏は戦後の世を憂い、家が継続する大切さを訴えたのではないでしょうか。

時は経て、「御先祖」を目指した戦後世代と異なり、現在のシニアが語るのは「残された家族に迷惑を掛けたくない」という言葉のようであります。「繋がりの大切さ」を「迷惑」ということばだけで結んでもよいのでしょうか。

暗いお話の続く今年の中で、永遠の時間のロマンを感じさせるニュースに胸が躍りました。

それは、探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウで採取した試料入りのカプセルを地球に無事送り届けたというニュースです。地球からリュウグウまでは六年間に及ぶ飛行距離五二億キロの長い旅だったそうで、今度は残った燃料で一〇〇億キロ先の小惑星にまた向かうそうであります。

十年前の初代「はやぶさ」が相次ぐ故障を克服して帰還した時は「満身創痍でよく頑張った」と涙した記憶がありますが、今回の「はやぶさ2」は本当にスマートに任務をこなしてくれたと心から拍手を送りたいと思います。

この原稿の締め切りが近づく年末から年始にかけて降り続いた雪は県南を中心に記録的な豪雪となり管内御寺院さまの被害報告も受けております。心からお見舞い申し上げるとともにご不明な点は遠慮なくご相談ください。

振り返って、「今こそ大切なものは何か」を問いながら、長い歴史の中で幾多の難題を乗り越えてきた先人の善知識、善護助の叡智により、今年こそ必ずや今の難題を乗り越える年になるよう念願し年頭の挨拶といたします。

年頭のご挨拶

普通、あたりまえのありがたさ。

宗議会議員　國安大智

令和三年を迎え、謹んで県内寺院ご山内の皆々様、檀信徒の皆様のご多幸を心から祈念申し上げます。また国内はもとより世界において、未知の感染症でお亡くなりになられました方々のご冥福を祈り、一日も早く終息し、普通の、あたりまえの生活に戻ることを切に念じ上げます。

さて始めに、昨年大本山永平寺様におきまして、七十九世福山諦法禅師様が、平成二十年より、十二年間お勤め下さいました貫首をご退董されました。福山禅師様には、益々御法体堅固にて、先ずは御療養して下さり、お元気になられますこと祈念申し上げます。

福山禅師様の御退董式後、これまで副貫首をお勤め下さいました南澤道人老師が、永平寺八十世として貫首様、禅師様にご就任、ご入山なさいました。現在の諸事情を鑑み、本年四月二日に、永平寺様に於いて「晋山式」が挙行されるようであります。南澤禅師様は、永平寺監院、副貫首、更に札幌中央寺専門僧堂の堂頭も長くお勤め頂きましたのでご存知の方、御縁のおありの方は多数いらっしゃると思います。愈々のご高導を冀うものであります。次に昨年十一月九・十日大本山總持寺獨住二十三世板橋興宗禅師様の「茶毘式禮」本葬儀が、限定の人数で大祖堂にて挙行されました。故板橋禅師様は当県にも多数仏縁を持たれ、何度も秋田に足をお運び頂き、檀信徒の皆様にも特に記憶に残る禅師様ではなかったでしょうか。改めまして、皆様と共に哀悼の意を表したいと思います。

次に昨年五月八日永平寺様に当県十六教区永泉寺住職寿松木宏毅老師が【単頭】に就任されました。ご承知の通り總持寺様では、当県六教区洞雲寺柴田康裕老師が既に同じ【単頭】としてご活躍されております。両大本山の大切なお役目である単頭老師が、どちらも秋田県から、というのはなかなか無いことだと思います。とても有難く誇らしいところでもあります。御二人には、近年の多様な厳しい僧堂環境にあって、修行僧の育成とご本山隆昌の為更なるご活躍を、そして秋田県の宗門興隆の為にご精進頂きたいと思います。

次に宗門行政についてでありますが、昨年は厳戒態勢の中、第百三十四回・第百三十五回宗議会が、通常の時期をずらして、何とか開催され、今年度予算、昨年度決算は議決されました。が、ご承知の通り、二年度事業はほぼ中止となり、世の中の動向と同じでありました。そして、もう来月、通常二月議会、いわゆる新年度の予算を決める議会が開催される予定であります。出来れば来年度予算で宗費削減等を盛り込んだ何らかの予算案をと、財政部長始め、内局の方々に、例年とは違い、お逢いする機会が限られましたが、お願いを致しております。日増しに感染者が増える中、昨年からですが、内局、両会派執行部始め、宗務庁職員も予算編成、次年度事業案作成の為、登庁し頑張っておりました。感染、クラスターを出さないことが、あたりまえの様に、宗務庁、グランドホテルも何とか頑張っております。

今後の宗門におきまして、議論されるべき問題は山積みですが、一昨年よりご紹介しております過疎対策を始め、人口減少に伴う専門僧堂のあり方、そしてグランドホテル、減価償却が終わり、法定耐用年数を間近に控えたホテルの今後のあり方等上げればきりがありませんが、皆様の忌憚のないご意見、提言をお待ち申し上げております。直近の問題は随時お知らせして参りたいと思います。

今年も何卒宜しくご指導下さいますようお願い申し上げ、重ねて感染症が終息し普通の世の中になることを衷心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶、ご報告とさせて頂きます。

合掌

年頭所感

『授戒会についての一考』

宗議会議員　深川典雄

令和三年の年頭に当たり、寺門の隆昌と安寧を心からご祈念申し上げ、被災地域の一日も早い復興並びにコロナウィルス感染症が一日も早く終息することを冀う次第であります。

以前この所報をお借りして申し述べたことがありますが、授戒会は、檀信徒にとって仏弟子になるという厳粛な儀式であり、参加されることによって信が決定し、宗門檀信徒としての新たな人生への出発点となるものであり、その点を考えれば、この授戒会こそ在家信仰の根幹に据えるべき行持であると思われます。

そして、私ども世代が、青年僧侶に継承していかなければならない大切な儀式であります。

しかし、全国寺院においては、ここ三十年の間に授戒会の啓建数は減少の一途を辿っており、県内においては、ここ十六年間一度も開催されること無く今日を迎えている現状から、向後に至っては、益々一ヵ寺での単独開催は難しくなることが予想されます。

よってこれからは、秋田県下寺院の叡智を結集させた授戒会の開催、即ち、宗務所主催での開催が望まれるところであります。

幸いにして当県宗務所は、平成十四年六月『大本山永平寺高祖道元禅師七百回大遠忌報恩授戒会』を啓建し戒弟の方々に大いなる感銘を与え、大円成させた経験があります。

図らずも、三年後の令和六年には『大本山總持寺太祖瑩山紹瑾禅師七百回大遠忌』が控えていることでもあり、現宗務所役職員の方々には、なにとぞ、在職中叡知を結集しご決断を頂きたく思うところであります。

年頭に当たり、私の思いの一端を述べ、今後共、御慈援ご指導を賜りますよう御願い申し上げ、管内寺院老宗師の御法体堅固並びに山門の御隆昌を祈念申し上げる次第であります。

結びに、この度掲載いたします『疏』は、当山授戒会の維那をお勤め頂いた、岩館祖芳老師からお作り頂いたものであります。

ここに、謹んで恩徳寺二十三世重興天桂祖芳大和尚に捧げ擱筆させて頂きます。

合掌

淨法界身　本無出没　大悲願力　示現去來

仰冀真慈　俯垂照鑑

日本國秋田縣能代市萬年山長慶寺焼香比丘　信義

今月今日恭値當寺開山草菴守瑞大和尚

二十一世中興大岳慈雲大和尚
二十二世重興大登龍泉大和尚
歴住諸位大和尚　報恩忌辰

謹設二菲薄之奠一仍請二現前清衆一諷誦

所集殊勲　上酬慈恩者也

右伏以

法眼玲瓏　高奏二先哲秘曲一
禅機密用　親和二先聖風標一
竊以　伝開開創　遠縁二起慈覺大師　三禮觀音像一
古刹風光　久由二来長慶金山　山岳霊験道一
有二草菴守瑞和尚一得二篤信檀越一
建二立梵刹一号二萬年山一
一二興鼻祖家風一
時光変遷　堂塔伽藍形雖レ然
剉影蕭々
天変祝融　人智無レ術心

浄法界身　本無出没　大悲願力　示現去来

仰冀真慈　俯垂照鑑

日本國秋田縣能代市萬年山長慶寺焼香比丘　信義

今月今日恭値當寺開山草菴守瑞大和尚
二十一世中興大岳慈雲大和尚
二十二世重興大登龍泉大和尚
歴住諸位大和尚報恩忌辰

謹設菲薄之奠仍請現前清衆諷誦
所集殊勲上酬慈恩者也

右伏以

法眼玲瓏　高奏先哲秘曲
禅機密用　親和先聖風標

竊以　伝聞開創　遠縁起慈覺大師三禮觀音像
古刹風光　久由来長慶金山山岳霊験道
有草菴守瑞和尚得篤信檀越
建立梵刹一号萬年山一興鼻祖家風

雖然　時光変遷堂塔伽藍形判影蕭々
天変祝融人智無術心慌気隠々
至此　二十一世発願不退身業化世安勝地松原作龍巣
二十二世不惜身命而今現成作諸堂建立立新條
今也　得寺門繁興法輪逾々転
有山風殿盛化門益々開

干時　二十三世法灯正紹遺芳拝謝難酬法乳啓建尸羅会
結四衆接化勝縁為古教照心本資

仰冀　給真慈降臨伏享巌茗供
謹疏

維持平成十六年十月二十日萬年山長慶寺焼香比丘信義謹疏

慌気隠々
二十一世発願不退身業化
世安勝地松原作龍
巣
二十二世不惜身命而今現
成作諸堂建立立新
條
得寺門繁興法輪逾々
転
有山風殿盛化門益々
開
至此
干時
二十三世法灯正紹遺芳
拝謝難酬法乳啓建
尸羅会
結四衆接化勝縁為古
教照心本資
仰冀
給真慈降臨伏享
巌茗供
謹疏
維時平成十六年十月二十日萬年山長
慶寺焼香比丘信義謹疏

新型コロナウイルス感染症への対応状況報告

このデータは、昨春秋田県宗務所でお願いした新型コロナウィルス感染防止への県内寺院の対応を聞き取りしたアンケートの回答をまとめたものです。

１年近くを経てなお感染は終息せず、むしろ拡大傾向にあります。涅槃会の時期を迎え、各寺における対応の参考になればと思量し掲載いたします。

寺院名	法要種別	対応・状況１	対応・状況２	対応・状況３	ご意見・現況等（要約）
A寺	涅槃会	内献			葬儀・法事をお寺側からは断っていない。施主家の都合によっている。施主家からことわりの電話があれば伺わないが、それ以外は如常。全県単位で全て中止にする旨を通知してはどうか？
	彼岸会	内献			
	地蔵大祭	内献			
	葬儀	施主意向優先			
	法事	施主意向優先			
	朝経	施主意向優先			
B寺	涅槃会	内献（檀信徒へは中止連絡）			法事のキャンセル・延期が多くなってきている 葬儀は家族・近親者までがほとんど。 県外在住の方は遠慮願っている場合が多い。
	彼岸会	お参りのみ			
	葬儀	家族・近親者	県在住者限定		
	法事	延期			
	朝経	如常			
C院	涅槃会	内献			寺院側からの朝経・葬儀・法事のお断りはしていない 飛沫感染防止の観点から配経を自粛 4月以降の葬儀は会食なし。僧侶も１名が多くなった。 しばらくは寺院での葬儀の場合会食自粛を要請
	彼岸会	内献			
	葬儀	マスク着用	間隔をとる	会食自粛	
	法事	配経自粛			
	朝経				
D寺	坐禅会	如常			葬儀・法事・朝経・盆法要なども如常であるが、家族のみなどの少人数、遠方の子供や親族は欠席としているようだ。 これらについては、お寺側からの指導ではない。
	梅花講	3月～8月中止	9月～如常予定		
	彼岸会	3月如常	秋は思案中		
	葬儀	如常			
	法事	如常			
	朝経	如常			
E寺	彼岸会	法要中止	参詣如常		GW中の法事キャンセルもあり 葬儀等用僧も減った。 お盆の墓経、棚経についてどうしたらよいか。 他寺では取りやめたところもあるようだ。
	葬儀				
	法事	例年と比べて少数			
	朝経	休止要請も数件あり			
F寺	涅槃会				彼岸会は内献としていたが、お参りの方があり、椅子の間隔を広くして座っていただいた。 朝経は電話確認後に行っているが、自粛方向 「曹洞宗」「秋田県宗務所」の名で貼り紙をしたい。 お寺単独ではなく、方向性を示して欲しい。
	彼岸会	内献			
	葬儀	少人数	県在住者限定	会食自粛	
	法事	自粛要請			
	朝経	確認後			
G寺	涅槃会	内献	中止		彼岸会は例年よりも多くの参詣者で賑わった。 窓・玄関は開放のままで行い手指消毒を常設 法事は延期・中止の申し出が数件あった。 梅花・坐禅会・写経会は３月・４月は中止とした。
	彼岸会	如常			
	葬儀	マスク着用	会食自粛		
	法事	施主意向優先			
	梅花・坐禅	中止			
	朝経	如常			
H寺	涅槃会	内献			朝経・法事　わずかですが延期や中止の要望あり。 8月の棚経毎年静岡や青森から手伝いにきていただいていたが、今年は中止も検討中です。
	葬儀	如常	会食自粛		
	法事	如常	施主意向優先		
	朝経	如常	施主意向優先		

寺院名	法要種別	対応・状況１	対応・状況２	対応・状況３	ご意見・現況等（要約）
Ｉ院	涅槃会	内献			
	彼岸会	内献			
	葬儀	会食自粛			
	法事	会食自粛			
	朝経	如常			
Ｊ寺	涅槃会	中止			外出自粛 先行きがわからず不安 手洗い・うがいに努めて檀務を頑張る
	彼岸会	如常			
	葬儀	家族葬	会食自粛		
	法事	少人数			
	朝経	如常			
Ｋ寺	涅槃会	内献			お寺にはアルコール消毒薬。 参列者の間隔をあけて、窓開け換気。 GW 中の法事は多くが中止か延期となった。 今後お盆の対応をどうするか思案中。 他県往来規制が緩和された後の感染状況を注視する。
	彼岸会	内献			
	大般若	中止			
	葬儀	家族・近親者	県在住者限定		
	法事	家族・近親者	県在住者限定		
	朝経	如常	施主意向優先（お休み）		
Ｌ寺	涅槃会	法要のみ	斎無し・弁当持ち帰り		法事が激減した。 6 月より法事・葬儀について檀家さんの希望を聞き、映像をライブ配信の対応をしている。（無償） 映像は後日でも視聴が可能。設備投資（約 30 万）は護持会にて負担。
	大般若	法要短縮	斎無し・弁当持ち帰り		
	葬儀	会食自粛	※映像配信		
	法事	会食自粛	※映像配信		
	朝経	如常			
Ｍ寺	涅槃会	中止			
	大般若	中止			
	彼岸会	如常			
	葬儀	施主意向優先	会食自粛		
	法事	施主意向優先	会食自粛		
	朝経	如常			
Ｎ寺	涅槃会	中止			
	開山忌	中止			
	葬儀	家族・近親者	会食自粛		
	法事	一部中止あり			
Ｏ寺	涅槃会	中止			
	開山忌	中止			
	葬儀	家族・近親者	会食自粛		
	法事	一部中止あり			
Ｐ寺	涅槃会	中止			３月１日総代会にて涅槃会中止を決定。 法事の中止（4~6 月末　6 件） 遠隔法事（住職本堂で供養、施主は自宅仏壇前　2 件） 収束後も自粛が続く可能性があり、どう対処するか。
	葬儀	家族葬	会食自粛		
	法事	施主意向優先			
Ｑ寺	法会講	中止			密集を避けるため内献も人の来ない時間帯で行う。 葬儀・法事ともに県外者は呼ばず、近親者のみ。 会食も折り詰めの持ち帰りが多い。 法事のキャンセル後見通しが立たない。 今後市内で感染者がでた際の対応があれば良い
	彼岸会	内献			
	盂蘭盆会	内献			
	葬儀	県在住者限定	会食自粛		
	法事	少人数	延期		
Ｒ寺	先住忌	内献			葬儀・法事等　基本的には如常ですが、内実は家族や近親者のみ。お斎はなかったりと制限があった。 寺院対応としても、極力マスクの着用に努めた。 お盆にむけての対応や今後が問題だろうと思う。 今後の情報提供をお願い致します。
	葬儀	近親者のみ	会食自粛	マスク・消毒	
	法事	近親者のみ	会食自粛	マスク・消毒	
	朝経	如常	マスク着用		

寺院名	法要種別	対応・状況１	対応・状況２	対応・状況３	ご意見・現況等（要約）
S寺	彼岸会	中止			葬儀・法事の会食はなくなった。 折り詰めを持ち帰る形式。
	観音祭	未定			
	盆合同供養	中止検討中			
	葬儀	会食自粛			
	法事	少人数			
T寺	涅槃会	中止			葬儀ほぼ家族葬、法事もほぼお寺での入法事となる。 近年ただでさえ仏事に無関心な層が増えており、お寺の在り方も苦境に立たされている。 このコロナを境に簡素化の傾向が大勢を占めることになりそうで不安である。
	彼岸会	内献			
	地蔵大祭	中止			
	葬儀	家族葬			
	法事	入法事			
	朝経				
U寺	涅槃会	如常			5月・7月に予定していた講。 行持は中止。
	彼岸会	如常			
	施食会	如常	会食自粛予定		
	葬儀	少人数	会食自粛		
	法事	少人数	会食自粛		
	朝経	如常			
V寺	涅槃会	法要のみ	会食自粛		
	彼岸会	内献			
	葬儀	如常			
	法事	会食自粛			
	朝経	如常			
W寺	涅槃会	如常			
	彼岸会	内献	会食自粛		
	葬儀	家族葬			
	法事	寺院会場　増	会食自粛		
	朝経				
X寺	涅槃会	中止			中止・延期ばかりで教化活動が出来ない 対策があれば教えて欲しい 早期解決を願う
	彼岸会	内献	マスク着用		
	葬儀	寺会場×			
	法事	会食自粛	延期要請		
	朝経	中止	お休み		
Y寺	涅槃会	内献			観音講・般若講〔内献〕地蔵講〔中止〕 遠方の檀家さんからの法事を秋口に変更したい旨の連絡や相談が多数あり。 お盆のお墓参り・施食会について検討中 200年以上の伝統ある札打ち行持も中止
	彼岸会	内献			
	梅花講	中止（五月）			
	葬儀	如常			
	法事	遠方檀家延期			
	朝経	如常			
Z寺	涅槃会	如常			法要は各自本尊、厨子、お墓詣りをしていただいた。 例年通りの参列者であった。 「新型コロナウィルス感染症に対する寺院対応」を遵守している。 心の不安に対して宗教的対応をする。
	彼岸会	如常			
	葬儀	県在住者限定	会食自粛		
	法事	県在住者限定	会食自粛		
	朝経	如常			
a院	大仏祭典	内献			田舎だからと油断してはいけない 学校へ通う息子にも予防を徹底して欲しいが難しい 寺院業務に支障をきたさない事を最重要視している。
	葬儀	少人数	会食自粛		
	法事	間隔をとる			
	朝経	如常	電話確認		
b寺	涅槃会	内献			葬儀の対応については4月初旬の状況
	彼岸会				
	葬儀	家族葬	葬儀：本堂　会食：自宅		
	法事				
	朝経	月経中止			

寺院名	法要種別	対応・状況１	対応・状況２	対応・状況３	ご意見・現況等（要約）
c寺	涅槃会	如常			
	彼岸会	内献			
	降誕会	内献			
	葬儀	家族・近親者			
	法事	県外延期			
	朝経	如常			
d寺	涅槃会	内献			葬儀後の会食が無くなり、折の持ち帰りがほとんど。 法事も身内のみや中止が多くなっている。
	彼岸会	内献			
	葬儀	会食自粛			
	法事	少人数	中止		
	朝経	如常			
e寺	涅槃会	如常	会食自粛	随喜無し	大般若会はマスク配布・間隔をあけるといった対策も 月例の梅花講・そうじ等は当面お休み。 坐禅会は少人数の為行っている。 遠方の方がほとんどのご法事の場合以下の提案。 供養・墓参りを撮影、プリントして一筆添えて送付。 お布施は郵送する。　何件か実施した。
	彼岸会	如常	自由参拝		
	大般若	参列自由	会食自粛	随喜減	
	葬儀	如常	少人数	会食自粛	
	法事	日程延期	住職のみを提案		
	梅花講	当面中止			
f寺	彼岸会	内献	参拝は自由		GW県外からの法事は７割キャンセル。不参供養や葬儀の延期などがある。　葬儀後の会食も少しずつ行われているが、宗務所宗務庁で線引きをして欲しい 知り合いの医師の話として、トイレを介しての感染が一定数あるのではという話がある。
	念仏講	中止			
	葬儀・法事	マスク着用	手指消毒	間隔を空ける	
	葬儀・法事	会食自粛（弁当）	換気	県外者確認	
	朝経	如常			
g寺	涅槃会	如常	2月29日逮夜		涅槃は例年通り寺院15名。参拝者は減。 降誕会：寺院随喜を断る。彼岸会：今年は雪も少なくお墓詣りは多かった。堂内への詣りは少なかった。 会館（葬儀）は他県からの親族も来ないよう要請しているようだ。　地域によっての温度差、若者の同居者がいない方々は特に警戒感はなさそう。 今後の状況によっては、枕経・火葬への立ち会いを考えなければならない時がくるのかな？
	降誕会	内献			
	彼岸会	内献			
	葬儀	会館（身内のみ）	会食自粛		
	法事	如常	寺院での開催を要請		
	朝経	如常			
h寺	涅槃会	内献			曹洞宗として「こうする」という指針を早め早めに出して頂くとありがたい。
	彼岸会	内献			
	両祖忌	内献予定			
	盂蘭盆会	内献			
	葬儀	家族葬	会食自粛		
	法事	少人数	会食自粛		
i寺	大般若	内献			
	彼岸会	内献			
	葬儀	会食自粛	マスク着用		
	法事	会食自粛	マスク着用		
	朝経	マスク着用			
j寺	涅槃会	中止			檀信徒78件 生活がままならない状態です。
	彼岸会	内献			
	花祭り	中止			
	地蔵講	中止			
	施食会	中止			
	朝経	如常			

寺院名	法要種別	対応・状況１	対応・状況２	対応・状況３	ご意見・現況等（要約）
k寺	彼岸会	如常			
	葬儀	県在住者限定	会食自粛		
	法事	県在住者限定	会食自粛		
	朝経	如常			
l寺	涅槃会	中止			葬儀当日の納骨が多くなった。
	花祭り	如常	稚児行列（父兄参加自粛）		
	彼岸会	如常予定			
	成道会	如常予定			
	葬儀	家族葬	会食自粛		
	朝経	如常			
m寺	涅槃会	随喜制限	檀家役員のみ		
	葬儀	県在住者限定	少人数	会食自粛	
	法事	県在住者限定	少人数	会食自粛	
	朝経	如常			
n寺	涅槃会	参列制限	随喜無し		法要参加を責任役員・梅花講員に限定。寺院随喜無し 葬儀等、マスク着用で移動、読経中は外している。 法事は遠方からの方で日程延期があった。 梅花講・写経会は５月の開催は見送り 坐禅会は少人数かつ、連絡先も把握してあるので開催
	彼岸会	内献	消毒液据置	換気対応	
	葬儀	施主意向優先	マスク着用		
	法事	施主意向優先	マスク着用		
	参禅会	５月お休み			

秋田県宗務所ネット法話〈９〉

一、〇〇〇km先からの思い

秋田市　東光寺副住職　鈴木慶道

二〇二〇年の世相を表現する漢字一字は「密」、目には見えないコロナウィルスの怖さを感じた年でございました。二年前の七月には「秋田県集中豪雨」、形は変われど自然の驚異は恐ろしいものです。私が副住職を務めさせているお寺の近くでも浸水被害がありました。全国的なニュースで流れたこともあって、大雨の際は県外の方々からたくさんのご連絡をいただき大変ありがたく感じたものです。

自分以外のだれかのために何かを考え行う。永平寺を開かれた道元禅師は「親疎をわかたず、平等に済度の心を存ず」と説かれています。「親疎」とは、親しいだったりそうでなかったりということで、そういう考えを離れるということです。『誰にでも分け隔てなく慈しみの心を持つ』小さいときから言われていることですが、実際にそうした生き方をするというのは難しいものです。

ある日、お寺の郵便受けに一通の封筒がはいっておりました。封筒の裏側には見慣れないお名前が書かれているだけで住所は書いてありません。消印を見ると、どうやら封筒は大阪府から送っていただいたものと分かりました。中には『豪雨被害復興祈願』と書かれた一枚の般若心経の写経とお手紙が入っており、「秋田県

での豪雨被害の知らせに言葉にならないほど驚きました。写経を一枚納付します。一日も早く復興してくださいますように心よりお祈り申し上げます。可能ならばお寺に納経願います」と書かれていました。

大阪府からわざわざご連絡いただいたのは非常にありがたいと思いながらも「わざわざ大阪から送ってくださるなんて、秋田に知り合いの方でもいらっしゃる方なのかな」と思う私がいました。その後、メールと電話での交流が始まりました。その中で、差出人の方は秋田県だけではなく東北にも来られたことがないと分かりました。「私はもう八十歳を超え大きな病気もわずらっているので、体を動かして皆様のお手伝いするのができません、何かできればと写経させていただきました」差出人の方はテレビで秋田県の災害状況をみて純粋な心で写経をされ、インターネットで写経会を行っている当山を見つけて送って下さっていたのです。

自分の事を振り返ってみると、世間の大変なニュースなど、自身と関わりがあるところ、住まいと近いところは近しく感じられるものの、関係性が離れるとどこか遠くで起こっている出来事のように思ってしまう一面がありました。この交流は自分自身を見つめなおし大いに反省する機会になりました。

秋田県と大阪府は約一、〇〇〇キロメートルの距離が離れています。今回遠くからいただいた純粋な思いは物理的な距離や関係を離れた、まさにほとけさまの心であり行いでした。仏教の教えが遠く離れたインドから中国を通って日本に伝わってきたように、人々を思うのに分け隔てすることなく、平等にいたわる心を持ち続けていきたいものです。

妄言風発

この紙面は皆様の思惑を掲載するフリーページです

―十八教区の皆さまの声―

『実苗義産語録』をよむ

龍泉寺住職　佐藤　俊晃

数人の仲間と『実苗義産和尚語録』を読んでいます。実苗義産（一七七五～一八三八）は湯沢出身、東源寺、最禅寺、正洞院を歴住、天徳寺三住ほか勧請開山の寺院もあり藩下に知られる名僧でした。その修学時代、上洛し宇治の興聖寺に掛搭しますが、時の堂頭が玄楼奥龍、後席は霊潭魯龍でした。この二人は当時、牛問厚、虎仏通とともに狼玄楼、獅子霊潭と渾名され、苛烈峻厳な策励で知られた禅界四獣の両角でした。義産は二人の膝下で鍛治され魯龍会下では首座もつとめています。以前同じ仲間と奥龍の『臨在家語』、『蓮蔵海五分録』を読んだ際、こちら側の未熟故に充分に咀嚼できないところはあるものの、豪壮かつ綿密な言行の数々に圧倒されました。その狼の、さらには獅子の家風がどのように秋田に伝えられたのかという関心から義産録を繙いた由です。

たとえば義産録の仏殿法語に、

頭上は大慈殿、脚下は法王身。正に与麼の時、什麼物かこれ真仏ならん。

山頭は雲靄靆靆、門前は水漲流。

とあります。これは『霊潭和尚四處録』中に見える魯龍の興聖寺晋住時の仏殿法語、

色を以て見ず、声を以て求めず、正与麼の時什麼物か是れ真仏ならん。

挿香して云く、山頭は雲靄靆靆、門前は水漲流。

これを踏まえたものでした。霊潭録には興聖寺時代の首座に寄せて「請首座示大衆」という語が数度見えますが、そのいずれかは義産を指してのものでしょう。義産録にも「法幢師霊潭龍大和尚」に寄せる法語がいくつも見えます。

また佐藤信淵の縁者で湯沢の名医として知られた須田春育の詩に次韻した「次須田春育韻代興隆偶作」があります。

南北東西浅深を探り、露に眠り草に宿して煩襟を洗う。

而今大笑す昔年の事、萬縁を放下して心を求むること無し。

春育その人との交流も興味深いのですが、より心惹かれるのは春育の著『見聞百物語』に見える「西郊疏叟ノ渓詩話ヲ引イテ支那大鵬禅師ノ博学ヲ賞シ、尾州公ト玄楼和尚応接ノ事」という記事です。ここには春育が義産より親しく聞いた興聖寺時代の奥龍と義産とのエピソードが綴られています。

このように江戸宗史のあるいは秋田藩史の、それぞれにたしかな足跡を印した禅僧のありようを、難解な禅語に翻弄されながらも追い続けてゆくことに、うれしさとありがたさを感じています。

師父と兄をおくり、今想う

洞雲寺住職　嵩　仁芳

深まる秋に落ち葉を掃き集め、この課題に悩む小衲です。

お寺に子供が生まれ、家族という生活が始まった自坊。父は出家で、一生の中に親が三度も変わり弟子と師匠という仲で育ち、公務員と僧侶と兼ねて生計を立て、師匠の妻並びに一家を守る苦労の人で、夜が明けると両肩に荷を背負い裏山の九十九折の道を上り畑を耕し、やがて本堂から朗々とした読経の声が響き渡る中に、兄と眠い目を擦り冷たい水に驚かされ本堂の雑巾がけをする。母が位牌堂のお厨子の前に霊膳を備える。内仏さまのお勤めを終え事務仕事の中の父に、家族それぞれが仏壇に手を合わせ一言を述べ、向きを変え朝の挨拶のあと朝食を頂くのが日課でした。そんな中に着替えをし勤務に向かう父でした。

ある日曜日、家族一同がテーブルを囲み、新聞紙の包みに注目し、広げた中身は一本の羊羹でした。母に包丁を求め、絹糸に持ち替えて物差しで計り切り込む様子に生つばを呑み、切り間違いしないかと眼を凝らし、渡されたお皿の上の羊羹を見くらべし、紅茶パックをヤカンに入れお茶碗についで、頂きますの中に父と母のお皿の上は両切はしがのっていました。あの日の事がなぜか至福として今も残っています。

朝夕のお檀家さんご先祖供養のお参りの姿に、家族兄弟がご縁を頂いて今に至ります。

こんな時に、一言の言葉を交わす事も、顔を合わせる事もないままに

あの世に旅立った兄が諸行無常、会者定離を教えてくれました。

父が笑顔で人にお逢いする姿勢をそのまま受け継いだ姿が、お棺の中の安堵した顔でした。今度はお前の番がやって来るよ、と言う声が昨今は痛く感じます。笑顔で子や孫達、お檀家の皆さまに勤められるかと案じます。

故人の言葉に『世の人とお香のよしあしは、煙となりて後こそ知れ』と訓じてありました。

さあ。明日も外作務が待っている。

乱筆乱文にて誠に失礼を致します。

菊殘猶有傲霜枝

【菊は殘(そこな)はれて猶ほ霜に傲るの枝有り】

玉林寺住職　桑名　秀明

「菊殘猶有傲霜枝」とは、蘇軾（蘇東坡）が、友人の劉景文に贈った詩の一節で、「一年好景君須記　正是橙黄橘綠時」（一年の好景君須らく記すべし　正に是橙黄(とうこう)橘綠(きつりょく)の時）と続きます。

「菊には、霜が降りて花の多くが萎んでしまったのに、めげずに花を咲かせている枝があるし、橙の実はまさに黄色く色づき、蜜柑は青々としている。一年の内でも好ましい今の光景を忘れないで欲しい」という意味ですが、霜が降り草木が枯れゆく時節は、やはり物哀しくあります。

しかし、寂寞としたなかにも健気に咲いている花があり、橙の暖かい色、蜜柑の青い色は目を楽しませてくれるばかりではなく、寒さと共に色付き、口福をもたらしてくれます。

自然の摂理を説きながら、実は蘇軾は、老境に入った友人を、「年をとるのもそんなに悪くはないよ」、と励ましています。

私は散歩が好きです。

霜が降りた今時分（十一月半ば）の朝、町はずれを歩いていると、畑の中の忘れ去られたような片隅に、一本の菊が凛として花を咲かせているのを見かけることがありますが、きっと蘇軾もこのような菊を見たのでしょう。

今、世の中は悪疫禍によって疲弊してはいるものの、悪いことのみが席巻している訳でもありませんし、冬の後に春の訪(おとな)ないがあるように、この悪疫も早晩退散することでしょう。

「菊は殘はれて猶ほ霜に傲るの枝有り」

如何なる時にも、かかる菊のように凛とありたいものだと思う今日この頃です。

皆様、呉々もご自愛願います。

合掌

追記　表題については、「花は降りた霜で全て萎んでしまったが、それにもめげずに枝を凛と張っている菊がある」という解釈もありますので念の為。

過去を引く

天昌寺住職　本間　宣道

起承転結なしにずるずると綴りゆく。

過去を引くと聞くに、何か罪を犯した人たちを想像しますが、彼らは自分の内に秘めて表には出さず、気を使いながら、けんめいに生きています。

ここでの過去は、いろいろな役職についた人たちが、それを退いても、尚、しがみついている様に感じられます。永年苦労してその役職についたとしても、退いた後は、皆と同じであるはずが、そうではないらしい。私は名刺を持った事はありませんが、名刺をいただいた時に、名前だけ見ますが、時々、たくさん書いてあるのに出合うことがあります。それには、元○○、前○○とありますが、過去に自分のついた役職が書いてあるのには、驚きました。

名刺だけではありません。今は少なくなりましたが、お葬式の時の弔辞での紹介に、元○○様、前○○様、すごい時は経歴まで入れる時があり、弔電も同様にあります。過去の役職を引きずらず、現在の自分であってほしいものです。

私たち僧侶の場合も、教師によって名前がついていますが、檀信徒の方からは、何の区別もなく、ただ和尚さんと言われるだけで、自分はこれこれの資格があるとは言いません。住職であろうが、東堂であろうが、みな和尚さんであり、名前で呼ばれる事もあります。

学歴・職歴を問われると、空白の時期があります。りっぱな役職についていた方にも、多少はあるのではないでしょうか。

過去をふり返らず、遠く未来を見ずに、今を十分に生きられるのが、本来の姿と聞いております。退いた過去の役職を捨てて、軽くなったらと思いますが、その思いはかなえられるかどうかは各人それぞれ……。

日々辛抱

実相寺住職　大佐賀　俊博

只今コロナ禍である。あれからもう一年に、成ろうとしている。思えば今年の一月末コロナの感染者を乗せた大型客船が入港した頃、私は奈良の吉野に居た。予てより行こうと思っていた蔵王堂を訪ねたのである。季節柄閑散としていてゆっくりお参り出来た。御堂は思ったより小さかったが、柱に驚いた。何と梨の木だと言う。猶に直径一メートル近い大木である。昔の修験者が原生林から探したのだろう、とても珍しいものだった。この蔵王堂には蔵王権現が祀られている。昔役行者が山上ヶ嶽で一心に祈念した処、最初に釈迦次に観音そして弥勒菩薩が現れ、これら三体の合体したものが忿怒の相した蔵王権現と言われている。今でも修験道の本尊として崇められている。修験道と言うのは神道と仏教が混成した山岳信仰である。この修験者は山々を歩く。私の日課であるウオーキング等は足下にも及ばない。奈良も都市部から離れると結構田舎が多い。ともあれお参りを良として帰途に着く。この頃から新型コロナの感染が始まったように思う。都市部より拡大して全土に広まった。教区内外の行事もほとんど中止になった。こんな歳が有っただろうか。当山でも涅槃会や夏のお盆行事を取り止めた。それにしても大雨の洪水やら大津波そして疫病の流行と、天は我々に次から次と試練を与える。人類の行いを試すかのようである。今は只辛抱強く我慢するしかない。コロナ退散を仏天に祈り、おの〳〵自重するしかないのである。この気持で日々辛抱すれば近い将来きっと明るい未来が来る筈である。一日も早くワクチンが出廻ってマスクの外す時が来る事と疫病退散を祈ってペンを擱きます。日々修行と思って精進しましょう。

丑年ひと昔

養牛寺住職　藤原　徳義

拙寺は丑年が廻って来ると、養牛寺という珍しい名前から少しばかり注目されます。悪い気は致しませんが、再び丑年を迎える年月の速さは痛感させられます。その十二年前を思い出すと、店員が何を勘違いしたのか領収証に「乳牛寺様」と書いて、笑い話のような体験もつい昨日のことのようです。一般に十年ひと昔と言いますが、十二支の節目で振り返っても、二年の時空差は感じられません。

その前の丑年となると、牛の疫病が世界中に流行した頃と記憶しております。国内でも次第に深刻となって食肉業界が危機に陥ったときです。拙寺の本尊を電話で尋ねられました。匿名で食肉関連の者と名乗りながら、牛と関係の深い大日如来の祈祷寺院を探していたようです。本尊は釈迦如来と答えたところ、以降の問い合わせがありませんでした。

養牛寺と同じ名称の寺院は「曹洞宗寺院住所録」で調べると、埼玉県に一ヶ寺だけ載っています。他の宗派では、拙寺名と同じお寺は確認できません。拙寺を今年は丑年に因んで、ただ珍しい名前というだけの曖昧な自慢をしようと思っております。

拙寺の由来を、屈託のない法類会では「牛を飼っていたのか」と冗談を言われます。天徳寺様に出世された祖竹虎禅大和尚の会下が、恒例では歳の暮れに結集致します。今度は負けずに「十二支の牛は虎の先」と言い返そうと楽しみにしていました。しかし、コロナ禍のため昨年は中止され、せっかくの駄洒落も忘れず脳裏にしまい込むしかありません。

この後十二年、次に廻ってくる丑年まで息災に過ごせるのだろうか。ただ今は、コロナ禍の自粛に我慢して、辛抱強く過ごすことの方が大切だと自分自身に言い聞かせています。

お盆の剪定にて

永安寺住職　藤原　潤悦

当寺は山に面しているせいか松杉桜銀杏胡桃など様々な樹木が立っております。お盆前に剪定を行いますが作業後の景色を見るとその美しさに気分が良くなり、これで仏様を気持ちよく迎えられると有難く思います。剪定作業は熟練した技術を持った檀家さんが数人で行ってくれるのですが、その方々は今年は高齢や怪我を理由に辞退されてしまいました。あわてて後任を探しましたが中々見つからず、今年は剪定を行わないままお盆を迎えてしまいました。お盆中はお参りに来た人から手入れされていない参道の木についての小言を言われないかおどおどしておりましたが、そういった話は一つもありませんでした。檀家さんに聞いてみると、木が伸びてはいるけど

それでも丁寧に整っているので特に気にならなかったといっておりました。例年作業してくれていた人が丁寧な仕事をしてくれたおかげで伸びた枝木が目立たなくなっていたようです。改めてその職人技に敬服致しました。その後剪定をしてくれる方がようやく見つかり、お盆は過ぎてしまいましたが境内の木々は去年と同じく綺麗に整い秋彼岸を迎えることが出来ました。整えられたオンコの木が並んだ参道を見下ろすと、例年通りの光景に安堵し、今まで作業を行ってくれた方、そして今回作業を行ってくれた方に感謝を込めて合掌礼拝しました。

お寺は一日の流れが決まっており毎日が同じことの繰り返しです。私は漠然と今年も同じお盆が来ると思っておりましたが、その当たり前が多くの方の見えない尽力によるものであると改めて思い知らされました。

来年のお盆は今回のことを教訓として例年通りのお盆になるよう微力を尽くしたいと思います。合掌

令和二年に思うこと

宗福寺住職　黒澤　良允

令和二年は様々な事が一遍に起こった年でありました。年明けからの新型コロナウィルスの感染拡大は、未だ収束の兆しが見えません。それに伴う緊急事態宣言、外出自粛、オリンピックの延期、ＧｏＴｏキャンペーンの実施や中止、等々色々ありました。また、社会生活の変容も私たちに大きな影響を与えました。マスクの着用や手指消毒は、もはや習慣化している事と思います。

患者や医療従事者、最前線でコロナウィルスと戦う方々への差別や偏見も社会問題となりました。未知の病気への恐怖が不安を駆り立てる状況に対し、私たち宗侶が少しでも和らげる取り組みを続けていかなくてはと強く感じます。

私自身にも大きな出来事がありました。住職辞令を拝命し、宗福寺三十四世となった事です。大役を担う事となり身が引き締まる思いで（体型は相変わらずですが）毎日、東堂老師から教えを請い、精進をしております（精進してると私自身は思ってます）。

拝命にあたり感じたのは仏縁とは不思議であり尊いものだな、ということです。私の得度の受業師は宗福寺三十一世でした。幼い私にとって、宗福寺三十一世は祖父に近い感覚を覚えておりました。線香はこう持つんだよ、このまま後ろに並んで着いてきなさいなど小学生であった私によく教えて下さいました。得度式の写真を眺めるたび、本堂の本尊様や開山歴住様のお位牌に手を合わせるたびに、仏縁を頂戴したありがたさや責任の大きさを実感し、より頑張らねばと決意を新たにしています。

願わくは、曇華再び現じて重ねて覚苑の春を開き、慧日長えに明にして永く昏衢の夜を照らせますよう、皆様には御祈念を、私は研鑽してまいります。

雑　感

浄運寺住職　黒瀧　隆謙

最近新聞で今年度の自殺者数が増加しているという記事をみました。特に若い20代の女性の自殺者数が前年比で7割増加しているという事でした、その理由は書いておりませんでしたが、私なりに推測すると、このコロナ禍の影響で失業したり、飲食店や観光業で顕著だと思われますが、お客さんの減少による収入の減少等による経済的な影響がひとつ、有名芸能人の自殺による影響、連鎖自殺、誘導自殺とも言ってもいいかもしれません、若い方は特に影響を受けやすいと思われます。コロナ禍で自宅に籠りきりの自粛生活を送っている人が多くなり、人と会話することが減り、ネガティブな考え方に陥りやすくなり精神的な負担が増えているのかもしれません。単純に理由をこれらに絞ることは出来ませんがこのような要素が複合的に絡んで増加していると思われます。このような状況はコロナ禍の影響は勿論ありますが、経済的な面からみると、それ以前から兆候があったと思います。一昔前は一億総中流社会といわれた時代がありましたが、最近では貧富の差が拡大して来ていると感じますし、地方の経済状況は良いとはいえません。私のお寺では今現在護持会費を毎年お檀家様から徴収しておりますが、今後護持会費等の見直しを考えていかなければならないかもしれません。また宗務庁に納めている宗費も累進性をもっと強めていただければと思ってます。これらの事は各寺院様の規模や形態によって様々な意見があると存じますが、規模の大きい寺院が率先していかなけ

ればいけない問題だと思います。そう思う一方、護持会費等、ただ闇雲に安くすればいいという問題でもなく、あのお寺、あの住職や奥さんなら率先して協力していきたい、そう感じていただける僧侶でなければという思いもあります。また精神的な課題として、電話相談窓口を開設したり、月に一日でもお寺カフェを開設して地域の皆様と触れ合う場を作りたいという想いはありますが、出来てない状況です。また日頃葬儀後に簡単なお話しをさせて頂く機会があります、衣食足りて礼節を知るという言葉が有りますが、このような不況で住職という名にあぐらをかいてお釈迦様は～などと言ってる自分はどうなんだろう、と自虐的に考えてる時もあります、修行研鑽が足りません。

最後になりますが、僧侶が政治経済の話をするべきじゃないとお思いの方もいらっしゃると思いますが、消費税はしばらくの間凍結か廃止をするべき。

コロナ禍でのこころのつながり

立昌寺住職　水野　聡哉

原稿を書くのは、一昨年の布教師試験以来です。何を書こうかと考えても、すぐには思い浮かばず、つれづれなるままに書かせていただきます。

今年は「コロナ」に始まり、「コロナ」に終わった一年でありました。そして、来年以降もこの感染症に向き合わねばなりません。

約百年前にも「スペイン風邪」が流行し、世界中で多くの方が亡くなりました。自坊の過去帳を見ても、その時期に亡くなった方の数がとても多いことが分かります。当時の住職（私の曾祖父）は、次々と人が亡くなっていく現状にどう向き合い、何を思ったか今となっては知るすべもありません。

目に見えない未知のウィルスへの恐怖は今も昔も変わりなく、まして医学の未発達な時代では、神や仏にすがる思いであったでしょう。しかし、現代は明治以降の西洋的なものの考え方が浸透し、科学や医学が飛躍的に発達しました。合理的なものの考えは、日本人の「こころ」のつながりにも影響を及ぼしました。

過疎化の顕著な自坊の各集落は、多くが高齢者の一人暮らしで、子供や孫は他の地域で暮らしています。隣近所の付き合いや家族同士のつながりですら「過疎化」が進んでいるのです。

冬にはいり、感染者数が増加するにつれ、国や自治体が主体となって、なんとかおさえこもうと懸命になっています。感染症予防という行為そのものが、互いを思いやる「こころ」の結びつきにつながっているような気がします。

マスク一つ付けること、手を消毒することで他者と自身の身体堅固へとつながる。未知のウィルスが人の未知なる「こころ」のありようを問いかけているように思えてなりません。

応量器展鉢が好きです

本宮寺住職　佐藤　善廣

扱いに困る告白でしょうが、こんなことを言える機会はそうありません。今ですと新型コロナウィルスの症状の現れ方の一つに「味覚を感じない」ということがあるようです。「味気ない食事」を私は人生で何度か経験しました。何をしてであったかは覚えていないのですが、烈火の如く怒られた後に泣きながら食べたご飯と極度の緊張の中での食事です。味も何もそもそも唾液が出てこないので、噛んでも噛んでも飲み込むことが出来ない。押し込むように食事を終えたことを覚えています。

私の応量器展鉢初体験は「極度の緊張」の中、一口飲み込むのも大変だったことの記憶と結びついています。大学入学を前に応量器の使い方は一通り仕込まれてはいましたが、表面上、作法は出来ていても身体の内側が「食事」の状態になっていないという感じでしょうか。後にも先にもあの一食の経験は忘れがたいものです。

思い起こせば、学校の郷土学習で「安藤昌益の思想」をやった際に「不耕貪食の徒」というのが、なかなかに辛い言葉でした。朝食に五観の偈を唱えていたものの「一つには功の多少を計り……」の部分で「不耕貪食。」とツッコミを入れられているような気持ちでいたこともありました。だからといって食べないのかというとそうではありません。お腹は空きますし、食べたらおいしいというのは変わらずに生きてきました。今も日常的な食事はごく一般的な形式です。

応量器展鉢は飲食を超えて、食材にも、生産者にも、調理者にも、一緒に食す方にも、自身にも、空間にも感謝をし、味わうことができる素敵な食事と感じています。月に一度だけですが、参禅の方々へ告白を続けています。

恥じて償い

観音寺住職　小林　泰成

人より物の時代に生き、大学からも三行半を突き付けられ中途半端な人生を好き放題生き何の知識も心構えも持たず、流されるが儘、住職という重役に迎え入れてくださった地域の方々。

今日迄、何をして来たのだろう。地位をひけらかし威張れども、恩返しとか人に盡す何か行動言動はあったか。

個人主義を重んじ、孤立無援を選択。右倣えを重宝する社会に埋もれ、我を見失う人々。コロナ禍で、更に其等を強調され行場を見失い己を痛める。そんな人々の前で、まだ威張れるか。

お釈迦様や道元禅師の遺された数々は、周囲の命から生まれたものではなかったのか。其等に一度でも恩返しをして来たか。

拙僧にとっての恩返しは、罪償い以外の何者でもないことを、つい最近漸く気づいた。

昼夜、適当に思いつきで坐禅をしてみる。周囲様々な音が耳に入る。機械の音、鳥や虫、人の声、風や雨の音、歩く音、食器の音。己の呼吸音が其に埋もれる、否、沢山の音に抱かれ支えられるを発見。沢山の音が、とても静かに聞こえる。

音々が、振動となって身体中に沁み入る。

著名な起業家が、生前遺した言葉に

『人生に大切な一つは己を恥じること』

己が遺した音々に必死でしがみつく子や孫。音の一々を静かに聞く。放り投げた音が余りに多く、恥じて子や孫に頭を下げる。

恥じて、次代が代行する尻拭いを一つでも減らすに尽力す。出来れば、活かすに転じて頂くを願いながら。

『またこの寺へ寄りたい』音を、余生で拵えられるだろうか。

※当コーナーの掲載順は原稿到着順です。また、肩書きとご氏名は原稿に準じました。

表紙の言葉

新年にあたり、
明日への希望に力強く羽ばたき
輝かしい年になりますよう
ご祈念申し上げます。

宗務所だより

前回の所報１２７号で令和２年度下半期の行事予定をお知らせしておりましたが、新型コロナの県内における感染拡大に伴い、次の各行事を中止とさせていただきます。

・２月８日　第２回研修部研修会
・３月31日　徒弟研修会

この度の豪雪・防風災害で被害に遭ったご寺院様には、宗門から災害見舞金が交付される場合があります。

申請に際しては次の点に留意してください。

・災害が発生し被害が確認されたときは、被災箇所の写真を撮影しておいてください。（方向を変えて３枚程度）
・工事見積書（コピー可）、送金先指示書、当該地区の被災状況の記載がある新聞記事等の添付が必要となります。
・申請には手数料はかかりません。

その他詳細については平成29年５月発行の所報１１７号に記載しております。また、不明な点は宗務所にお問い合わせください。（境内の倒木の撤去費用も補償対象となる場合もありますので、建物同様の対応をとってください。）

宗務所正面の壁と、それに伴い文字の判読も困難な状態であった宗務所・禅センターの表示板の修理が完了いたしました。裏表紙に写真を掲載しております。

また22～23ページに掲載しましたように、宗務所の使用要項を新型コロナ感染拡大に合わせ改訂いたしました。宗務所を使用する皆様の健康状態を把握するため「健康状態申告書」を提出いただくことになりますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和２年度住職永年勤続表彰

60年表彰　対象：昭和35年４月１日～昭和36年３月31日

第８教区　龍泉寺　川村　一途　老師
第17教区　圓福寺　竹川　邦雄　老師

50年表彰　対象：昭和45年４月１日～昭和46年３月31日

第８教区　種蔵院　齋藤　一昭　老師

40年表彰　対象：昭和55年４月１日～昭和56年３月31日

第１教区　乗福寺　中泉　俊堯　老師
第６教区　栄昌寺　伊藤　秀廣　老師
第７教区　福城寺　佐々木道耕　老師
第８教区　龍像院　山谷　尚円　老師

30年表彰　対象：平成２年４月１日～平成３年３月31日

第５教区　慈眼寺　藤田　道寛　老師
第10教区　新田寺　保坂　春聴　老師
第12教区　満蔵寺　黒木　泰丸　老師
第13教区　常光寺　加藤　恭順　老師
第13教区　延命寺　阿部　裕二　老師

令和２年度寺族表彰

対象：昭和25年４月２日～昭和26年４月１日　70歳表彰

第３教区　円通寺　近藤　利恵子　様
第４教区　光禅寺　伊東　照子　様
第８教区　東源寺　森沢　文子　様
第９教区　倫勝寺　山田　由美子　様
第14教区　快禅寺　渡會　テイ子　様
第18教区　實相寺　大佐賀　邦子　様

対象：昭和35年４月２日～昭和36年４月１日　60歳表彰

第１教区　嶺梅院　三浦　秋　様
第５教区　永巖寺　朽木　由紀子　様
第８教区　玉林寺　齋藤　仁美　様
第11教区　萬養寺　小田桐　優子　様
第11教区　寶珠寺　佐々木　和子　様
第15教区　妙音寺　村上　郁子　様

※　宗務システム上登録の有る方転住等で既に不在や死亡などある場合もございます。

令和2年度山門法要

日程	教区	寺院名	法要
2月5・6日	16	永泉寺	本葬
6月13・14日	5	廣澤寺	晋山結制・退董
6月29・30日	1	正應寺	本葬
7月22・23日	7	寶蔵寺	本葬
7月26・27日	5	香積寺	本葬
10月17日	1	乗福寺	結制
10月17・18日	10	福厳寺	晋山結制
10月24・25日	11	恩徳寺	本葬
10月24・25日	3	寶圓寺	晋山

トピックス

令和2年11月3日の秋の褒章において、13教区長泉寺住職・奈良光英老師が永年にわたる保護司の活動により、藍綬褒章を受章されました。

令和2年11月14日10教区太平寺東堂・亀谷健樹老師が、『空を担いで寿老人』を上梓されました。これはご老師が発行を続けている「はがき禅」をまとめたもので、今回の出版はその五冊目にあたります。

◆令和2年度　曹保関係表彰者一覧

（敬称略）

●藍綬褒章

奈良　光英（鹿角保護区）

●法務大臣表彰

荻津　秀廣（横手保護区）

●更生保護法人全国保護司連盟理事長表彰

佐々木文雄（大曲保護区）

●東北地方更生保護委員会委員長表彰

明石　浩延（秋田保護区）

國安　大智（横手保護区）
千葉　友道（湯沢保護区）
杉村　寛人（湯沢保護区）
堀井　英和（角館保護区）

●東北地方保護司連盟会長表彰

村松　良周（能代保護区）
菅原　芳徳（鹿角保護区）

●秋田保護観察所長表彰

奥山　祖道（男鹿保護区）
奥山　真行（北秋田保護区）

●秋田県保護司会連合会長表彰

伊藤　仙峰（大曲保護区）

●秋田県知事感謝状

本間　雅憲（秋田保護区）
新川　泰道（能代保護区）
佐藤　道昭（本荘保護区）

ガイドライン
宗務所・禅センター利用ガイドライン【改訂版】

新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止の為、宗務所・禅センターを利用するにあたり以下に提示する内容を遵守していただくようお願い致します。

◯利用者の人数について
　主催者は事前に参加人数を把握いただき、宗務所へお知らせ下さい。
◯参加者各自の感染症予防の徹底
　マスクの適宜着用、手指消毒、適切な距離をとるなど、ご協力下さい。
　手指消毒液は宗務所入口、各所に設置しております。
◯飲食を伴う利用について
　飲食時での感染が疑われるケースも多々報告されています。
　飲食を伴う利用はご遠慮ください。
◯座席配置について
　会議や講義での座席配置においては「参加者同士が密にならない」
　「近距離での会話とならない」ような工夫と配慮をお願いします。
◯備品利用について
　消毒用品を用意しておりますので、利用時と利用終了時には利用者での
　消毒をお願い致します。
◯密閉対策について
　利用時には換気を意識して、可能な限り窓を開けるなどの対応を願います。
　長時間にわたる場合には特にこまめな換気をお願い致します。
◯密集対策について
　受付時や休憩時など人が密集しやすいタイミングがあります。
　トイレは1階2階を満遍なく利用したり、利用時間をずらすなど工夫下さい。
◯利用前後について
　参加者の健康状態を把握する為、"健康状態申告書"を事前に参加者へ配布や配信をしていただきまして利用時に主催者へ提出下さい。主催者はとりまとめたものを宗務所へ提出下さい。
　利用後に参加者へ体調不良等が生じた場合には主催者は参加者全員への周知連絡と宗務所への連絡をお願い致します。

● 宗務所所員の感染予防の為、接触機会を極力減らす為、準備・片付けは利用者でしていただきたいと思います。
　事務所への入室についても代表者など人数を限って頂くようご協力下さい。

秋田県宗務所・禅センター利用者

健康状態申告書

年　月　日

（ふりがな）

① 氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

② 教区 ＿＿＿＿＿＿　寺院名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※県内御寺院様・寺族様においては教区・寺院名のみお願い致します。

③ 感染流行地域への訪問や接触について
14日以内での感染流行地域訪問　あり　・　なし
感染流行地域在住者との接触　あり　・　なし

④ 体温 ＿＿＿＿℃（　当日自宅検温　）

⑤ 発熱・咳・倦怠感等の症状　あり　・　なし

⑥ 緊急時連絡先 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

⑦ 備考

・収集した個人情報は、目的達成のために利用し、法令に基づく場合や本人の同意がある場合を除き、他の目的での使用及び提供は致しません。
・参加者に感染者が出た場合は保健所の聞き取り調査への協力をお願い致します。
・濃厚接触者となった場合は関係機関からの指示に従ってくださるようお願い致します。
14日間を目安に自宅待機をお願いすることもあるようです。

編集後記

コロナ禍でお葬式もご法事も少人数で行われています。参列される方だけでなく、僧侶の人数も少なくなりました。これは私の住職地ばかりではないと思われます。感染が収まった後、今までの形に戻るのでしょうか。

葬儀や法事をリモートで行うお寺も増えていると聞き及んでいます。著書『寺院消滅』で有名な鵜飼秀徳師は、現状のコロナ対策としては有効なものとしながらも、オンラインによる葬儀の先にあるのは葬儀全体の地盤沈下であり仏教離れではないかと指摘しています。それを防ぐには、リアルな宗教空間（お寺）において行われる供養の持っている「遺族との思いの共有」が大事だとも言っています。

これは足下の状況でなくても、我々僧侶が忘れてはならない基本姿勢だと思います。儀式がスムーズに行えること、お経を朗々と唱えることは、もちろん身に着けるべき基本ですが、同様に、あるいはそれ以上に大事なのは、遺族の方々と同じように故人を偲び悲しみを共有することだと、改めて感じているところです。

人口減少と過疎化が進行する秋田県で、檀家数が減少していることは、先に行われた級階査定でもはっきりと見えてきました。寺院経営の視点から見ると大問題ですが、それだけ檀家の皆様との関係は「密」になるともいえます。そこから「思いを共有」することのできる寺檀関係が築けるのかもしれません。

これまでの疫病がそうであったように、コロナ禍もいずれ必ず収束するでしょう。しかし、葬祭が縮小する流れは止まらないような気がします。この流れを変えるには、葬儀や法事を真剣に執り行うこと、に尽きるのでしょう。

例年よりも余裕をもって年末年始の諸事を行えました。これもコロナによる自粛で様々な会合が無くなったからでした。新型コロナという厄災に暮れた１年でしたが、新たな気付きを得たような気がします。

（袴田俊英記）